

# 官民協力した森林理解・体験事業について

山形県小国町 産業振興課 ○二馬 健  
○佐藤 正樹

## 1 はじめに

小国町は、山形県の西南端新潟県境に位置し人口 8,863 人、町の面積は 73,755ha でその約 95%69,210ha が森林となっている。所有区分では、約 7 割が国有林、人天別では約 8 割がブナやナラ類が多く占める天然林である。町の主産業は戦前に立地した企業の影響から第二次産業となっており、就業人口の約 50%を占め 1 次産業の 7 %を大きく上回る山村にはまれな就業構造となっている。この豊かな森林を活かした、地域による観光ワラビ園の運営、森林公園の整備、森林セラピー事業を行っている。

かつて、当町では周囲に広がる豊かな森を活用した生活を営み、その中で町独自の生活文化、生活技術を創り上げてきた。しかし、生活様式、就業形態等が変化し、森林との関わり合いが少なくなったことから、現在次のような課題がある。

- (1) 手入れの行われない荒廃森林の増加
- (2) 病虫害、鳥獣被害の増加
- (3) 森を活用した生活文化、生活技術の消失
- (4) 森林機能によってもたらされる恩恵に対する住民の認識の低下
- (5) 農林業従事者の高齢化

これらの課題解決とまちづくりの基本目標の一つである「地域資源を活用した新たな産業の創出」の実現に向け、町土の約 9 割が森林である当町の環境が、豊かで清らかな水や澄んだ空気をもたらし、土砂災害を防ぐなど安全で安心できる我々の生活を成り立たせていることと、新たな産業振興の素材となることへの「気付き」、そのような環境の中で生活していることを「誇り」に思い、その環境や素材を活かした「新たな産業を興す人材育成」を目指した、「森林理解・体験事業」を昨年から実施している。

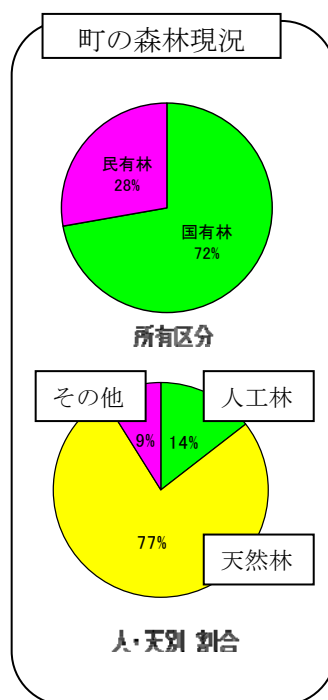
## 2 取組の内容

### (1) 取組の方向性

事業を実施するにあたり、目標実現のため 3 つの項目を柱に事業を実施することとした。この事業の財源として「やまがた緑環境税」を活用している。

#### ①町内農林業の再評価

実施事業：U I ターンした若い農林業従事者に今取り組んでいる仕事と U I ターンを決めた町の魅力などの事例発表を行う「森から拓く次代の生業づくり事業」を各中学校で実施した。



## ②森林の機能維持と里山文化の継承

実施事業：学校林整備や、小学校の親子行事と併せて実施した「間伐教室」、ナラ枯れ被害地の再生を図る「森林再生事業」を実施した。

## ③森林機能の理解の促進

実施事業：「ブナの森研修会」「白い森の国フォーラム」、幼児・児童とその保護者を対象に人間と環境との関わりについての学習活動を行う「環境教育推進事業」、森林セラピー事業の学校向け体験教育と一般向けツアーの実施、案内人への研修による質の向上を目指した「森林セラピー推進事業」を実施した。

## (2) 置賜森林管理署との連携

これらの事業実施にあたって、次の理由から専門的知識と技術のある森林管理署の協力を得て実施した。

①森林管理署では、既に理解・体験事業を実施してきており、経験や実績を踏まえた指導、助言を得ることで効果的な事業実施が可能であること。

②当町のように、森林の約7割が国有林の場合、活動の場として国有林を利用することが多く、事前に事業内容を検討・協議することで円滑な事業実施が可能であること。

③町職員には、豊富な森林知識を持ち、林業技術を指導できる者が少なく、多様なプログラムの提供が難しいこと。

本年は、「ブナの森研修会」、「間伐教室（学校林整備）」、「白い森の国フォーラム植樹体験」の各事業において森林管理署の協力を得て実施した。

## (3) 森林管理署と連携した事業

### ①ブナの森研修会

町を代表する金目川上流の「白い郷土の森」、飯豊山の麓に位置する「温身平」のブナ林の理解を深め、住民が町のブナ林に誇りを持つことを目的に講演会と現地研修を実施した。講師は、「温身平」を調査している新潟大学の箕口先生、「白い郷土の森」を調査している宇都宮大学の逢澤先生、ウエツキブナハムシやその他の病虫害被害の概要について、東北森林管理局の青山課長にお願いした。講演は、調査したデータなどを基に、他の地域と比較した内容であった。

また、事例発表では、五味沢地区が冬のブナ林で「雪の学校」という体験活動を行っており、内容を校長の齋藤重美さんに発表していただいた。翌日の現地研修では、「白い郷土の森」を逢澤先生、「温身平」は箕口先生、ウエツキブナハムシ等病虫害被害は青山課長から説明を受けた。前日に講演した内容を実際に示しながら説明を受ける内容としたことから、林の特徴や優れている点などの理解が進んだと考えている。



ブナの森研修会 初日の講演会



ブナの森研修会 2日目の現地研修

この事業では、初日の講演は町が、翌日の現地研修は森林管理署が担当した。森林管理署では既存の「森林ふれあい推進事業」で実施した。業務を分担することで、準備に要する事務処理や経費の軽減が図られるとともに、事業内容についても互いに意見を出し合いながら進めることができ、充実した内容となった。



ブナの森研修会 現地研修

## ②間伐教室（学校林整備）

町立白沼小中学校の学校林で、間伐、下刈り、枝打ちを実施した。学校との日程調整や作業員の手配は町が担当し、作業内容や道具の使用方法的説明や指導は森林管理署が担当した。

去年は、分収造林である学校林で実施した。保育作業の必要性や、作業で使用する道具の説明では、パネルや木材等を用いて生徒にも分かりやすい方法で説明が行われた。



作業内容の説明



伐倒した立木の玉切作業

間伐作業の伐倒の際には、作業を安全に効率的に進めることを考え伐倒方向を定めること、そのためのチェーンソー操作が必要なことを伝えることができた。伐倒した時には、生徒から歓声が上がり立木の重量感を体感することができた。



伐倒作業見学

## ③白い森の国フォーラム植樹体験

国際森林年記念事業として、白い森の国フォーラムを開催した。フォーラムは総務企画課が担当し、東京大学名誉教授の養老孟司先生の基調講演のほか、事例発表やパネルディスカッションを行い、森林の利用の在り方や森と人とのかかわり方などについて意見を交わした。プログラムには、植樹体験があり産業振興課が担当して実施した。植樹体験では、参加者対応や苗木の準備は町が担当し、植樹作業の説明は、森林管理署が担当して実施し



植樹作業指導



た。植樹では、積雪を考慮した斜めに苗木を植える指導がされた。このことは参加者だけでなく我々も参考になった。

植樹を行った黒沢峠敷石道は新潟と米沢を結ぶ旧越後街道で、敷石道は町の文化財となっている。地元の敷石道保存会では、以前から敷石道の維持保全活動を行っていて、その沿線は国有林であったことから、これまでもナラ枯れ被害調査や伐倒等の対策を森林管理署、町、地元の3者で行ってきた。このため、伐倒跡地の景観を被害前に戻したいという地元の意向や活動内容を互いに理解していたことから、植樹作業を、敷石道沿線でフォーラムの参加者の協力を得て実施することができた。加えて地元と森林管理署で「多様な活動の森」協定を締結することができた。これにより、地元の敷石道沿線の景観づくりや保存活動が容易となった。

植樹作業は、国際森林年の国内テーマの一つが「森を歩く」であったことから、植樹箇所を3箇所に分け、1.6km先の頂上まで森林に囲まれた敷石道に植樹を行いながら、敷石道保存会による説明を受け、散策することができた。

### 3 考察

森林管理署の協力による事業を実施して感じたことは、限られた予算や人員で、効率的、効果的に森林理解・体験事業を進めて行くためには、良い手法であり、森林管理署の説明の仕方や作業技術などは我々も学ぶ点が多くあった。

「ブナの森研修会」のように、それぞれの事業を組み合わせ実施する手法、「白い森の国フォーラム植樹体験」のように、当該事業を通しての地域活動へ協力する手法は今後も検討し実施していきたいと考えている。

また、事業を実施して、新たな課題が出てきた。

一つは児童生徒を対象とした事業では、総合学習の時間減少により学校として対応が難しくなってくることである。児童生徒を対象とした事業は、役場内でも教育委員会、健康福祉課等で実施しているが、類似した事業も見受けられることから、町の事前協議制度を活用し各課との調整や事業の整理を行い、学校が対応しやすい環境を作っていきたいと考えている。

併せて、各課が持っている地域活動や学校行事の情報を交換し共有することで、地域活動への協力、学校行事との組み合わせによる事業実施が可能になると考えている。

庁内各課同様、森林管理署とも調整や検討が必要となる。具体的には、毎年春に役場各課と森林管理署で連絡会議を開催し、当該年度予定している事業の情報交換を行っている。これまではハード事業だけであったが、今後はソフト事業も調整項目にして協議していきたい。



森林管理署、町、地元によるナラ枯れ被害調査



二つめは一般向け事業では参加者が少ないことである。これは、森林管理署等関係機関と協議を行い魅力的な事業内容を検討していきたいと考えている。

また、昨年度、親子行事で間伐教室を実施したところ、約 80 名の親子が参加した。対象を一定の年代に限定するのではなく、親子の形態をとるなど複数の年代の組み合わせによって、多くの人が参加できる手法を検討していきたいと考えている。

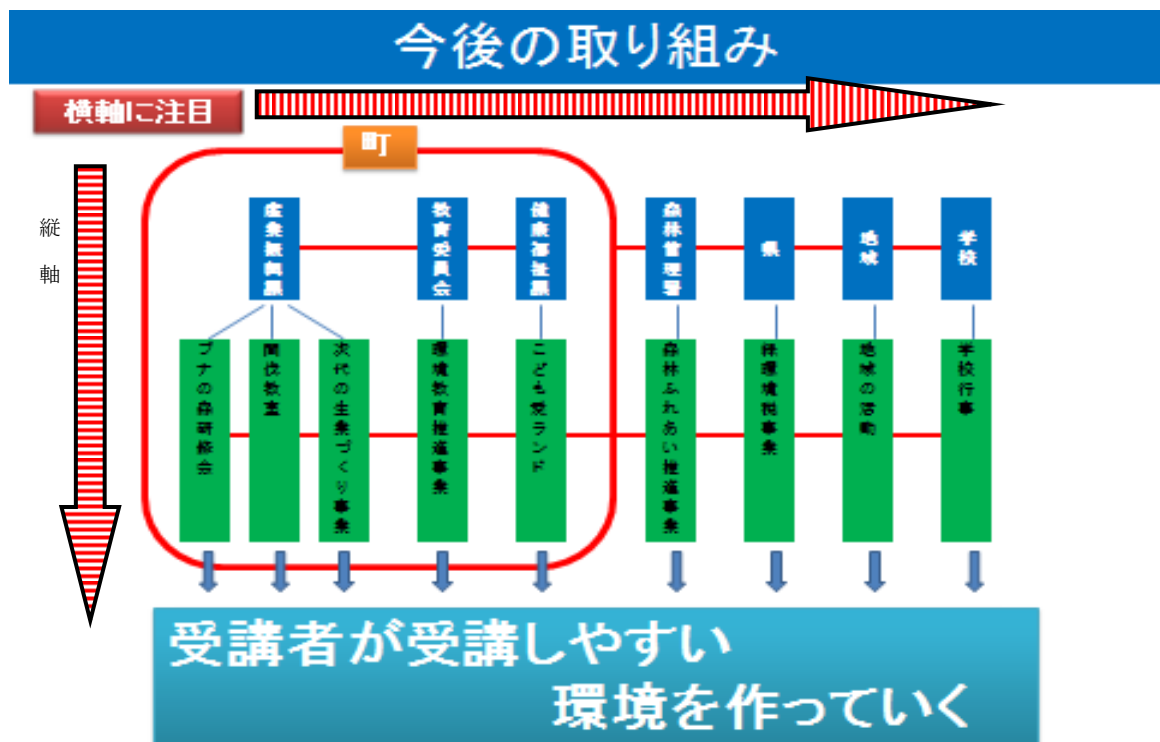
繰り返しになるが、これまでの受講対象だけを見ていたこの図－1 で示す縦軸だけでなく、役場内の各課はもとより、森林管理署、地域等関係団体との連携を進めるよう、この図で示す横軸に注目することで、団体が実施している事業の整理や、連携を図ることによりよい事業展開を進めていきたいと考えている。



毎年開催している連絡会議



親子行事で開催した間伐教室



図－1

当町が森林理解・体験事業を本格的に実施して 2 年目であり、始めたばかりである。今後とも森林管理署や関係機関の協力を得ながら進めていきたい。